

予科時代の写真は どうして撮れたのか？

佐々木 宏

予科26-6

歩兵4-4

(埼玉県栗橋町)

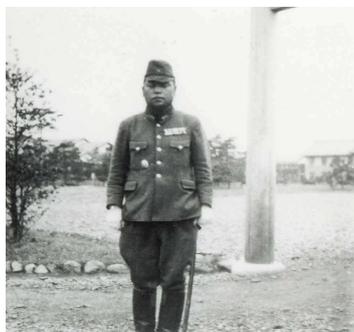


今手元にある古びた一冊のアルバムには、私が予科時代の生活を直接撮影した写真が数十枚収録されている。赤茶けた写真を見ていると、60年前の懐かしい振武台の生活がタイムトンネルのように思い出される。

秩父100号記念特集の編集に際し、川島委員長より提供を求められ、寝室の写真、校庭での写真、新鹿澤の写真、浅間6里ヶ原廠舎の写真等7枚が100号記念誌の冒頭に掲載されることになった。

100号記念誌の読者からも、よく撮ったものだ、どのようにして撮ったのかと云う質問が多く、川島委員長から是非その経緯を記事にしてくれと依頼された。

何しろ60年以上前の事、写真を見れ



予科26中隊長平井重文中佐

ば、その情景は思い出すものの、どのようにしてカメラを予科内に持ち込み、どのようにして上官の許可を得て撮ったのか、全ては忘却の彼方、経緯等を記録した資料もなく、以下自分流に臆気な記憶を基にして半ば創作してみた。

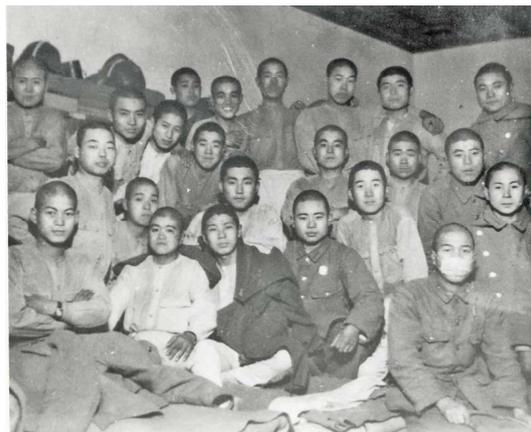
持ち込んだカメラは中学時代に親父に買ってもらった、ドイツ製の2眼レフ、ローライフレックスで当時としては可なり高級なもの。

次に、はっきり云えることは、私物厳禁の予科生活の中で、今はやりの盗撮のようなケチな行動で撮影したのではなく、堂々と撮影した事です。その証拠に代表として以下4枚の写真を見てください。

第1は、第26中隊長平井重文中佐(上



予科26-6区隊全員(中央)岸本義人区隊長



予科時代の寝室で寛ぐ

海軍変で金鷄勲章、戦後真駒内師団長)愛称ヒゲの中助が雄健神社の前で不動の姿勢で写っています。しかし、どうして撮らせ

てもらったのかははっきりとは覚えていません。中隊長にどう声をかけ、神社迄どの様に随行したのか皆目記憶がありません。おそらく当時18才の少年であった小生としては必死の想いでお願いしたに違いありません。

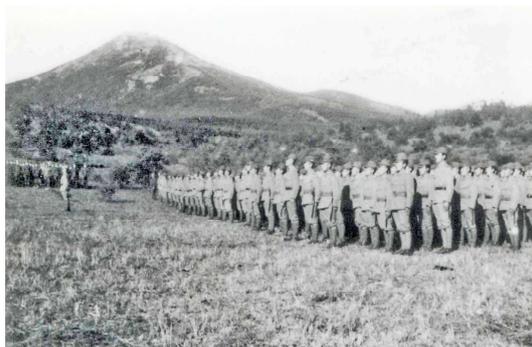
第2は、区隊全員の集合写真、航空一次の送別会の時、区隊全員に集まって貰って撮影したもので、ちゃんと区隊長も真ん中にデンとして座っています。

第3は、寝室内の全員の写真でも、今のようなフラッシュでは無くマグネシウム粉末を発火させたもので、ボーンと大音の出るものです。今思えば我ながら良くやったものをつくづく思います。

第4は、地上部隊の新鹿沢での演習の一駒です。浅間山をバックにして中隊全員が一行横隊に整列し、中隊長の訓示を受けている写真ですが、まるで従軍カメラマンのように一人列外に抜け出して写真を撮る特権が許されていました。

今思い出すと膝を故障して錬兵休のため、特にこのような行為が大目に見られていたのではなかったかと思われま

す。それに比べると新鹿沢の生活は平和な運動会のようなものでした。この写真は苦



浅間山をバックに新鹿沢での野外演習

にあったのか?苦難の日々の事と思われま

す。それに比べると新鹿沢の生活は平和な運動会のようなものでした。この写真は苦

勞した一次の人には申し訳ないが、歴史の一駒として残したいと思います。

これらの写真は休日の度に浦和にあった実家に帰って、自分で現像、焼増ししました。

さて如何にして撮影できたのか? 小生が考えられる点は只一つ、小生の態度だと思ひます。小生は意外に態度が大きい様で、自分ではその積もりは無いのですが、どうも姿勢が良すぎる、威張っている様に見える。これは復員して社会人になり、上司に生意気だと言われて初めて知りました。

この物怖じしない態度こそ、40歳の中隊長をカメラの前に立たせたと考えざるを得ません。凶太いというか、或いは厚顔無恥というべきか、何となく公認されたムードになった様です。これは一つの不思議であり、悪く考えればそれだけ軍紀が弛んでいたのかもしれない。

世の中善悪を問わず、全て右顧左眄は成功しません。

これらの写真は小山内君に協力をお願いして、写真に記事を添えて1冊のアルバムとして編集中です。年内に完成予定です。ご希望があればお分け致しますので、お申し越し下さい。